

令和6年度 浜松市立砂丘小学校の学校評価（令和6年12月実施）報告書

		評価	児童	保護者	教職員
1 学校教育目標 一心に学ぶ子	(1) 学力	A	46	41	14
		B	41	44	57
		C	9	13	29
		D	4	0	0
		E		3	0
	(2) 思いやり	A	56	56	71
		B	33	34	29
		C	6	9	0
		D	5	1	0
		E		0	0
	(3) 規範意識	A	35	38	14
		B	50	44	71
		C	11	13	14
		D	2	5	1
		E		0	0
2 分かる授業・楽しい授業	(1) 基礎基本の定着	A	79	50	14
		B	18	41	71
		C	0	3	14
		D	3	6	1
		E		10	0
	(2) 学ぶ意欲を向上させる授業の工夫	A	61	53	43
		B	27	34	57
		C	6	7	0
		D	6	3	0
		E		3	0

【評価】（単位はパーセント）
A…とてもそう思う B…そう思う C…あまりそう思わない
D…そう思わない E…わからない
※数字の太字は、A B合わせて90%以上を表す

		評価	児童	保護者	教職員
3 子ども理解	(1) 子供理解を基盤とした指導・支援	A	72	69	57
		B	22	25	43
		C	2	3	0
		D	4	3	0
		E		0	0
	(2) 安心できる学級・集団づくり	A	61	47	100
		B	22	44	0
		C	11	9	0
		D	6	0	0
		E		0	0
	(3) 生命の尊重・規範意識の醸成	A	72	53	57
		B	22	38	43
		C	4	9	0
		D	2	0	0
		E		6	0
4 開かれた学校	(1) 相談体制	A	55	66	57
		B	24	31	43
		C	16	3	0
		D	5	0	0
		E		0	0
	(2) 家庭・地域との連携	A		63	57
		B		31	43
		C		6	0
		D		0	0
		E		0	0
	(3) 情報の提供	A		69	57
		B		22	43
		C		3	0
		D		6	0
		E		0	0
	(4) 安全管理	A		59	86
		B		34	14
		C		3	0
		D		3	0
		E		1	0

		評価	児童	保護者	教職員
5 キャリア教育	(1) 自己肯定感	A	42	41	70
		B	31	56	30
		C	15	0	0
		D	12	0	0
		E		3	0
	(2) 自己管理能力	A	46	28	100
		B	31	50	0
		C	16	16	0
		D	7	3	0
		E		3	11
	(3) 将来の夢	A	77	41	70
		B	16	53	30
		C	2	3	0
		D	5	3	0
		E		0	0

1 令和6年度の取り組み① -教育目標-

＜一心に学ぶ子＞

- 「一心」とは、
全員の心を一つにすること、
各個の心を一つのことに集中すること。
- 「学ぶ」とは、
かしこさ、やさしさ、たくましさを身に付けること。
- 合言葉

「一心」

令和6年度の取り組み② -重点方策-

- (1)砂丘小のよさを継承・発展しつつ、直面する課題への対応
- 授業の充実(単元構成・授業構成の工夫、学習用タブレット端末の活用、少人数学習指導法の研修)
 - 複式学級による指導に通用する自ら課題に取り組む意欲、態度の育成(複式授業・合同授業の実施)
 - 地域の学習素材や地域人材の活用
 - 安心・安全な居場所作り(心理的安全性のある学級経営、いじめ見逃し0・組織的な対応)
 - 思いやりの心の育成、連帯感の涵養(日常的な異学年交流、合同授業、異学年合同の学校行事)
 - 豊富な活躍の機会の設定(学校行事、児童会活動、学級活での役割、達成感、充実感の感得)
 - 目標に向かって最後までやり抜く場の設定、体育的行事(運動会・マラソン大会)
 - 挑戦する場の提供
 - 自己肯定感、自己有用感の育成(体育的行事、文化的行事、挑戦したこと・一歩踏み出したことを評価)
- (2)充実した教育活動推進のために時間資源を生み出す方策を検討
- 朝活動、給食等の合同実施
 - 完全午前5時間日課の実施
 - 業務の選択と集中

～ 少人数の良さを生かした教育実践 ～

- 一人一人に寄り添ったきめ細かい手厚い教育
- 一人一人が活躍できる主役になれる多くの機会
- 温かいアットホームな学校風土
- 地域・保護者との連携による充実した教育活動

2 学校関係者評価

部活動が廃止されることは大きな変化だと思う。中学の部活動についても、見通しがもてないため戸惑っている。今後は受け皿も大切になってくると思う。また、いじめに関しては定義がだいぶ変わってきている。アンケートからは、大きく心配しなくていい結果が見られるが、これから小さなことを見逃さずに、いじめ対策委員会を定期的開催し、教師間での情報共有を進めていってほ

3 アンケート集計からの考察

「学力」「基礎基本の定着」に関しては、アンケートのパーセンテージが年々伸びている。昨年度見られたような大人(保護者・教師)と子供の認識の違いもなくなってきた。将来の夢についても、家庭で話されている姿が浮かんできてくほど保護者の方々の思いを感じる結果となった。「子ども理解」の各項目において、いずれも高い数字が出ているが、いじめ問題に直結する項目でもあるので、まだ、満足はできない。小さなことでも見逃さずに、見守りながら、子供が安心して友達と教室で学習し、悩みごと等、教員に気軽に相談できる体制にすべきと考える。各行事・活動において、保護者の方や地域の方の御協力を頂いて、教師と三位一体で児童の成長を育んでいることがアンケートからも見て取れる。そして、「相談体制」「家庭・地域との連携」も例年通り、高水準を維持している。しかし、現状に満足することなく、今後もCS(コミュニティー・スクール)、PTAと共に砂丘小独自の特色のある教育活動を継続していく必要がある。また、「自己管理能力」については、昨年度より数字は若干高いものの、まだ児童がものごとくに粘り強く取り組む姿勢については、継続して育てていかなければならない。

4 次年度に向けた改善策

今年度より、完全午前5時間授業を採用し、教師の出張による自習時間が大幅に減り、担任が児童と向き合う時間が増えた。来年度は、向き合う時間が増えた分だけ、学力の定着につながるはっきりとした手立てを設けることとした。今年度実施していた「かぶとんタイム」を今年度以上に効率的に運用(実施曜日を問わない・保護者への連絡手段の多様化)し、効果を上げていく。また、チーム担任制を採用する。これは、教師同士の連携をさらに高めていく策である。小規模校がゆえに、他学年の情報も入ってきやすいので、ともに共有して行動し、より良い指導に当たるというものである(例:家庭訪問、三者面談を二人の教師で実施)。そして、児童に達成感を味わわせるために、「砂っ子会議」を創設する。4年生以上の児童が一堂に会して、学校行事の企画、学校の問題(児童が考えることのできる範囲)に向けた取り組みについて、話し合いを通して、理解を深めたり、自らが砂丘小を作っていくという意識をもたせるものである。これらの改善策を行うことで、よりよい学校運営をしていきたい。